



## セカンド・パーティ・オピニオン

## SECOND PARTY OPINION

---

### 株式会社小松製作所

### グリーンファイナンス・フレームワーク

(2026年3月)

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2026年6月10日

Ref. Nr.: PRJN-269261-2021-AST-JPN-01\_Rev1

本評価書は改訂1として、「株式会社小松製作所 グリーンファイナンス・フレームワーク」への新規プロジェクトの追加、ローンの追加及びGBP/GBGLの更新等に伴い改訂された当該フレームワークに対し、2026年3月に追加的に評価したものです

## 報告書サマリー

株式会社小松製作所(以下、コマツ)は、1921年5月に石川県小松市で創業し、「建設機械・車両」、「リテールファイナンス」、「産業機械他」の3部門にわたって、製品の研究開発、生産、販売、サービス、販売金融に至る幅広い事業活動を国内並びに海外で展開しています。コマツは、経営の基本として、「品質と信頼性」を追求し、「企業価値」である、コマツを取り巻く社会と全てのステークホルダーからの信頼度の総和を最大化することを掲げています。また事業活動を通じてコマツは「安全で生産性の高いクリーンな現場を実現するソリューションパートナー」となることを目指しています。

コマツグループ(コマツ及び連結子会社)では、2019年4月に発表した2022年3月期をゴールとする中期経営計画にてESGの経営目標を新設し、その中の環境負荷低減の目標として、CO<sub>2</sub>排出を2030年で50%減(2010年対比)、再生可能エネルギー使用率を2030年で50%とすることを掲げました。その後、2025年4月より2028年3月期をゴールとする3カ年の中期経営計画「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタートしました。成長戦略の3本柱として、①イノベーションによる価値共創、②成長性と収益性の追求、③経営基盤の革新を掲げ、ありたい姿として再定義した「安全で生産性の高いクリーンな現場を実現するソリューションパートナー」を目指し、モノ価値及びコト価値の一層の進化に向けて活動を進めています。

このような取り組みを進める中で、コマツは、2020年6月に「コマツグリーンボンド フレームワーク」を策定し、同年7月にコマツとして初のグリーンボンド(無担保普通社債)を発行しました。その後、2022年9月に「コマツサステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク」を策定し、同年10月にコマツとして初のサステナビリティ・リンク・ボンド(米ドル建無担保普通社債)を発行しました。

このたびコマツは、資金調達段階から技術・サービスの供給に至るまで一貫した、コマツの地球環境方針に合致する事業の達成と、グループ・ビジョンの実現に向けて、環境負荷低減に寄与する技術・サービスを提供するサプライヤーとしての役割を果たすべく、投資家及び幅広い市場関係者との対話を行い、そして国際的に定められた枠組みに適合した形で必要資金をグリーンファイナンスとして調達するため、2020年6月のグリーンボンドフレームワークを更新し、コマツグリーンファイナンス・フレームワーク(以下、フレームワーク)を策定しました。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)は外部レビュー機関として、フレームワークの適格性を評価しました。

具体的には、DNV は以下を中心とした枠組みを適用し、フレームワークの適格性評価を提供しました。

- グリーンボンド原則(国際資本市場協会、2025 以下、GBP)
- グリーンボンドガイドライン(環境省、2024 以下、GBGL)
- グリーンローン原則(ローン・マーケット・アソシエーション(LMA) 他、2025 以下、GLP)
- グリーンローンガイドライン(環境省、2024 以下、GLGL)

上記の枠組みで示される、それぞれの共通要素に対する適格性評価結果の概要は以下の通りです。

### <GBP/GLP 適格性評価結果>

#### GBP/GLP-1.調達資金の用途：

コマツのグリーンファイナンスを通じて調達する資金が GBP・GBGL 及び GLP・GLGL で示される表-1 の代表的なグリーンカテゴリーに合致した適格事業に該当する新規または既存プロジェクト(適格事業)に充当される計画であることを DNV は確認しました(太字：新規追加事業区分/プロジェクト)。プロジェクトの概要は、表-1 を参照ください。これらのプロセスは GBP/GLP-1 に合致するものです。

#### GBP/GLP-2.プロジェクトの評価と選定のプロセス：

コマツは、表-1 及びスケジュール-1 に記載される対象グリーンファイナンス候補プロジェクト(適格事業)が、各適格事業を実施しているコマツの各責任部門により適格性の観点で特定すること、また対象事業候補とした事業については、コマツの環境

管理部および財務部が、コマツのグループ理念およびグループ・ビジョンとの適合性を踏まえ、対象事業の適格性を評価・選定し、取締役会にて最終決定されることを DNV は確認しました。なお、コマツは事業の適格性を判断する際、対象とする事業が環境・社会的リスク低減のために以下について対応していることを確認します。

- 事業の所在地の国・自治体にて求められる環境関連法令等を遵守し、必要に応じて環境への影響調査を実施していること
- サプライチェーンの観点で環境活動を実施していること

これらのプロセスは GBP/GLP-2 に合致するものです。

### GBP/GLP-3.調達資金の管理：









グリーンボンドもしくはグリーンローンによって調達した資金と同額をコマツ財務部が管理フローに従い、適格事業に充当します。調達された資金については、コマツ財務部が実際に適格事業にて使われた額を内部管理システムにて 4 半期毎に追跡管理します。調達資金は、充当が完了されるまでの間、資金と等しい額を現金又は現金同等物にて管理し、発行から原則 3 年以内に充当を完了する予定です。これらのプロセスは GBP/GLP-3 に合致するものです。

### GBP/GLP-4.レポートニング：

コマツは、適格事業に該当するプロジェクトに調達資金の全額が充当されるまでの間、資金充当状況ならびに環境改善効果に関して、コマツウェブサイト及びコマツレポート(統合報告書)または ESG データブックいずれかにて年次で報告する予定です。資金充当状況については、実務上可能な範囲において、プロジェクト毎に充当額、未充当額、プロジェクト概要、新規資金充当とリファイナンスへの充当割合を公表する予定です。また、環境改善効果については、実務上可能な範囲において、表-2 に示す指標を公表する予定です。なお、資金充当状況ならびに環境改善効果いづれも、ローンの場合は貸し手に対してのみ直接報告することも選択できるものとしています。これらのプロセスは GBP/GLP-4 に合致するものです。

DNV は、フレームワークをはじめとするコマツより提供された関連文書・情報に基づく評価により、フレームワークが関連する枠組みで要求される基準を満たし、グリーンファイナンスとして適格性があることを確認しました。また、今後コマツが実施するグリーンファイナンスが改訂されたフレームワークに従って適切に計画され、実施される見込みであることを DNV は確認しました。

表-1 コマツグリーンファイナンス候補プロジェクト(太字：新規追加事業区分/プロジェクト)

適格事業	GBP カテゴリー	適格事業概要	SDGs
プロジェクト A： 製品使用による環境課題への対応に関する支出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省エネルギー</li> <li>・ クリーン輸送</li> <li>・ 循環経済に対応した製品/製造技術・プロセス/環境配慮製品</li> </ul>	<p>2030 年までに製品稼働中の CO<sub>2</sub> 排出の 50%削減(2010 年比)に貢献する取り組み(以下の商品・サービス・ソリューションの研究開発およびそれらの提供・普及等)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 商品：ハイブリッド油圧ショベル(国交省による低炭素型建機認定対象)及び電動化建機、<b>水素エンジン車、燃料電池車など</b></li> <li>② サービス：IoT 技術活用による低燃費運転(CO<sub>2</sub>削減)支援</li> <li>③ ソリューション：ICT 建機の普及と施工全体の最適化を支援するアプリケーションの提供による CO<sub>2</sub>削減</li> </ol>	   
プロジェクト B： 生産による環境課題への対応に関する支出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再生可能エネルギー</li> <li>・ 省エネルギー</li> </ul>	<p>2030 年までに生産による CO<sub>2</sub> 排出の 50%削減(2010 年比)および再生可能エネルギーの使用比率 50%に貢献する以下の取り組み(設備投資等)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 工場内建屋及び設備の省エネ化(30%以上の CO<sub>2</sub> 排出削減効果があること)</li> </ol>	   

適格事業	GBP カテゴリー	適格事業概要	SDGs
		② ソーラーパネル設置等による太陽光発電やバイオマス発電導入、再生可能エネルギーの購入	
プロジェクト C： 経営活動による環境課題への対応に関する支出	・ グリーンビルディング	<p>以下の(いずれかの)建物認証を債券又はローンによる調達から遡って過去 36 ヶ月以内に取得または、更新した建物。または将来取得または更新予定の建物(付随する土地・設備・改修費用含む)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ZEB 認証：ZEB、Nearly ZEB、ZEB Ready</li> <li>➢ CASBEE 建築（新築）：S ランク、A ランク</li> <li>➢ LEED-BD+C (Building Design and Construction) または LEED-O+M (Building Operations and Maintenance) 認証（ともに v4 以降）：Platinum、Gold</li> <li>➢ BELS（建築物省エネルギー性能制度）： <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 平成 28 年度基準：5 つ星、4 つ星</li> <li>✓ 令和 6 年度基準：レベル 6、5</li> </ul> </li> <li>➢ DBJ Green Building 認証：5 つ星、4 つ星または 3 つ星</li> </ul>	

表-2 インパクト・レポーティングにおける指標(例)

適格事業	GBP カテゴリー	環境改善効果指標(例)
A 製品使用による環境課題への対応に関する支出	省エネルギー クリーン輸送 循環経済に対応した製品/製造技術・プロセス/環境配慮製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 製品使用による CO<sub>2</sub> 排出削減量または割合</li> <li>➢ 生産による CO<sub>2</sub> 排出削減量または割合</li> <li>➢ 再生可能エネルギー使用率(%)および年間使用量 (MWh/GWh または GJ/TJ/PJ)</li> </ul>
B 生産による環境課題への対応に関する支出	再生可能エネルギー 省エネルギー	
C 経営活動による環境課題への対応に関する支出	グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ グリーン適格要件を満たす物件概要</li> <li>➢ 有効な環境認証およびランク</li> <li>➢ 年間 CO<sub>2</sub> 排出削減量</li> <li>➢ 年間エネルギー使用削減量</li> </ul>

## 目次

報告書サマリー	2
I. まえがき	6
II. スコープと目的	13
III. コマツ及び DNV の責任	14
IV. DNV 意見の基礎	15
V. 評価作業	16
VI. 観察結果と DNV の意見	17
VII. 評価結果	29
スケジュール-1 コマツグリーンファイナンス候補プロジェクト	30
スケジュール-2 グリーンファイナンス適格性評価手順	31

### 改訂履歴

改訂番号	発行日	主な変更内容
0	2020年6月15日	初版発行
1	2026年6月10日	- GBP・GBGL・GLP・GLGL の更新や追加されたガイダンス等に伴い、改訂したフレームワークに対する追加的な適格性評価 - 改訂したフレームワークへ追加されたグリーンプロジェクトに対する適格性評価

### Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Issuer to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per Scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

### Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct<sup>1</sup> during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

<sup>1</sup> DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.DNV.com)

## I. まえがき

### i. 資金調達者について

株式会社小松製作所(以下、コマツ)は、1921年5月に石川県小松市で創業し、「建設機械・車両」、「リテールファイナンス」、「産業機械他」の3部門にわたって、製品の研究開発、生産、販売、サービス、販売金融に至る幅広い事業活動を国内並びに海外で展開しています。コマツは、経営の基本として、「品質と信頼性」を追求し、「企業価値」である、コマツを取り巻く社会と全てのステークホルダーからの信頼度の総和を最大化することを掲げています。また事業活動を通じてコマツは「安全で生産性の高いクリーンな現場を実現するソリューションパートナー」となることを目指しています。

### ii. 資金調達者の ESG/サステナビリティへの取り組み

コマツでは、事業のグローバル化が進み、ステークホルダーや社員の多様化が進むなかで、コマツが大事にするもの、これから目指すものを明確にし、グローバルで一貫性のある企業活動を展開しています(図-1)。



**私たちの存在意義** 事業の目的（ミッション）と目指す未来像（ビジョン）

ものづくりと技術の革新で新たな価値を創り、  
人、社会、地球が共に栄える未来を切り拓く

**私たちの価値観** 堅持する姿勢

**挑戦する**

高い志を持ち、失敗を恐れることなく、革新のために挑戦し続ける

**やり抜く**

困難にあっても決して諦めず、責任を持って最後までやり遂げる

**共に創る**

多様な価値観や個性を認め合い互いに敬意を持ち、Win-win 精神で協働することで新たな価値を創出する

**誠実に取り組む**

常に誠実に正しく行動し、信頼される存在であり続ける

**私たちの約束**

コマツはお客さまと共に持続可能な社会のために新たな価値を創り出します  
(パートナーシップを大切にすコマツの想いをtogetherのデザインに込めています)

**Creating value together**

図-1 コマツの存在意義、価値観、約束

コマツは、「社会課題の解決と収益性の向上の好循環を通じ持続的な成長を目指す」サステナビリティ経営を重視しており、持続可能な社会と事業継続性の達成に関する指針「サステナビリティ基本方針」を定めています。本方針に基づき、気候変動をはじめとする社会課題に誠実に対応し、グローバル企業として社会・環境に対する大きな責任を果たしつつ、事業活動を通じて社会に貢献していくことを目指しています。

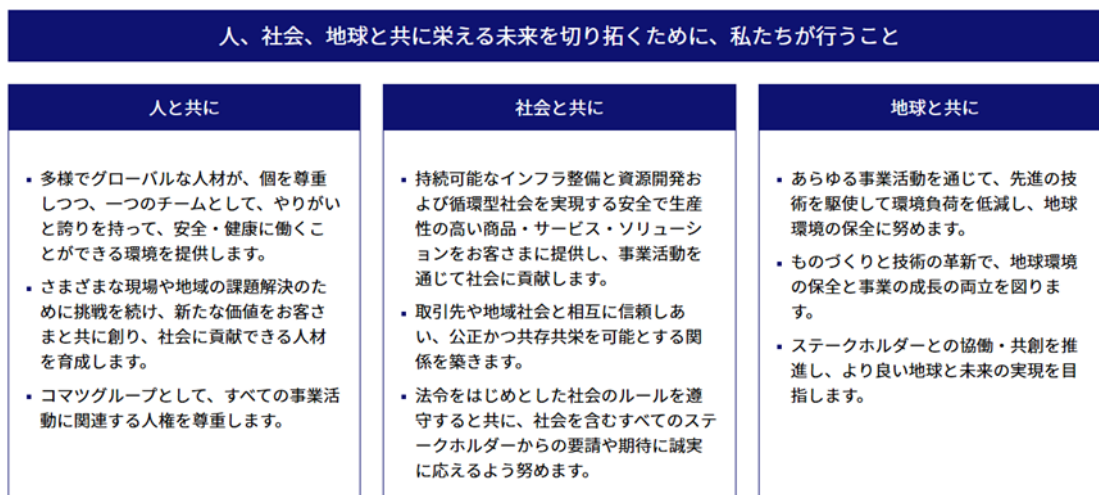


図-2 サステナビリティ基本方針

コマツグループ(コマツ及び連結子会社)は、2025年4月より2028年3月期をゴールとする3か年の中期経営計画「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタートしました。成長戦略の3本柱として、①イノベーションによる価値共創、②成長性と収益性の追求、③経営基盤の革新を掲げ、ありたい姿として再定義した「安全で生産性の高いクリーンな現場を実現するソリューションパートナー」を目指し、モノ価値及びコト価値の一層の進化に向けて活動を進めています。



図-3 コマツ新中期経営計画におけるありたい姿へのロードマップ

### iii. 資金調達者の環境への取り組み

#### コマツの地球環境問題への基本的な考え方

コマツは、持続可能な社会の実現を図りつつ事業活動を進めるにあたり、1992年にコマツグループの環境保全の基本方針(コマツ地球環境方針(2022年6月改定))を明確にし、環境保全活動を経営の最優先課題の一つと位置づけて徹底して推進し、気候変動をはじめとした環境問題の解決に向け、業界に先駆けて積極的に取り組んできました。

## コマツ地球環境方針

### 【基本理念】

1. **持続可能な発展への貢献**：人類は、豊かで快適な社会を発展させるとともに、かけがえのない地球環境を健全な状態で次の世代に引き継いでいかなければなりません。私たちコマツは、環境保全活動を経営の最優先課題の一つとして位置付け、あらゆる事業活動において、先進の技術をもって環境保全に取り組みます。また、2050年までにCO<sub>2</sub>の排出を実質ゼロとするカーボンニュートラルを目指し、ものづくりや製品から排出するCO<sub>2</sub>の削減、循環型社会構築への取り組みによって持続可能な発展に貢献します。
2. **エコロジーとエコノミーの両立**：私たちコマツは、エコロジー（環境に優しい）とエコノミー（経済性に優れている）の両立を追求し、お客さまに満足いただける優れたものづくりを行います。商品の生産から廃棄までのライフサイクル全体の環境負荷が最小限になるように努めるとともに、燃費の改善や作業現場の効率向上、循環型事業など、経済性にも優れた商品、サービス、ソリューションを提供するために、常に技術革新に取り組みます。
3. **企業の社会的責任**：私たちコマツは、それぞれの事業所の立地している地域法令の遵守はもとより、地球環境および各地域の環境課題を踏まえた自主基準を制定して環境保全を推進します。また、各地域の環境活動への参加や、社会への環境関連情報の開示に努め、ステークホルダーとの緊密なコミュニケーションを図ることによって、企業の社会的責任を果たすとともにより良い地球と未来の実現を目指します。

### 【行動指針】

1. **地球環境問題への取り組み**：私たちコマツは、事業活動が地域および地球規模の環境問題と深く関わりがあることを認識し、以下の取り組みによって持続可能な発展および気候変動の緩和と適応に貢献します。
  - 1) **気候変動への対応**：コマツの事業活動における、全ライフサイクルで使用するエネルギーおよび排出する温室効果ガスを削減します。また、自社の拠点、自社の製品使用時におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減にとどまらず、お客さまの現場施工の最適化により社会全体のCO<sub>2</sub>削減にも積極的に貢献します。
  - 2) **循環型社会の構築**：事業プロセスを通じて、材料・水などの地球資源の投入量を極力削減し、それらの循環を可能な限り推進するとともに、すべての事業領域での廃棄物削減の徹底を図ります。また、植林・育林・伐採の循環型林業を支える林業機械事業や、コンポーネントを再生・再利用するリマン事業にも取り組み、循環型社会の構築に貢献します。
  - 3) **大気・水環境などの保全および化学物質管理**：水質保全、大気汚染防止、騒音振動防止などについて、地域の法令はもとより自ら制定した基準も含め遵守します。また、事業活動の中で使用する化学物質の確実な管理を行うとともに、有害な可能性のある化学物質は継続的に削減・代替に努め、可能な限り使用を中止します。
  - 4) **生物多様性への対応**：生物多様性を地球環境の一つの重要課題と認識し、事業領域全体で生物多様性への影響を評価・把握・分析し、影響・効果の高い施策から優先して取り組みます。
2. **環境マネジメントシステムの構築**：コマツおよび主要な関係会社は環境マネジメントシステムを構築し、環境活動の維持・向上を目指します。その他の関係会社・協力企業においてもこれに準じた体制を整備し、グループ全体での環境負荷低減に取り組みます。また、中期経営計画に基づき設定された中長期目標に則り、グループ各社・各事業所はそれぞれの中長期目標を設定し、具体的な活動計画を策定・推進します。目標や活動計画及び活動状況は、トップマネジメントが定期的にレビューし、継続的な改善に取り組みます。
3. **環境教育および環境コミュニケーション**：私たちコマツは、一人ひとりの環境意識の向上が大事であると考え、全従業員への環境教育・啓発活動を積極的に推進します。また、グループ各社、各事業所の環境関連情報を収集し、事業活動全体の情報公開に努め、お客さま、従業員、地域社会、協力企業など、コマツを取り巻くすべてのステークホルダーとの積極的な対話を深め、環境コミュニケーションをより充実させます。

コマツは、さらに、事業活動が気候変動だけではなく、生態系に与える影響も認識し、2011年に「生物多様性宣言」と「ガイドライン」を制定し、工場建設などの土地活用時における生物多様性への配慮や、地域固有の生態系に配慮した「1拠点1テーマ活動」の展開、鉱山跡地の修復活動への貢献など、生物多様性の保全に向けた活動をグローバルに展開しています。

また、サプライチェーンにおける環境負荷の低減については、「CSR調達ガイドライン」および「グリーン調達ガイドライン」を制定し、グローバルな取り組みを進めています。

## コマツの気候変動への取り組み

**環境負荷低減に係る経営目標**：コマツは環境負荷低減について、下記の目標を定めています。

- CO<sub>2</sub> 排出削減
  - ✓ 自社排出(総量)：2030年50%減(2010年比)
  - ✓ 製品使用による排出(原単位)：2030年50%減(2010年比)
  - ✓ <チャレンジ目標>2050年カーボンニュートラル
- 再生可能エネルギー使用率：2030年50%

**建機稼働時のCO<sub>2</sub>排出削減**：建設機械のライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量は、製品稼働中の排出がおよそ80~90%と大部分を占めています。このような背景もあり、コマツでは製品稼働中のCO<sub>2</sub>排出量を削減するために、ダントツ商品、ダントツサービス、ダントツソリューションの3つのアプローチで取り組んでいます。

**製品稼働時のCO<sub>2</sub>排出削減**：コマツでは、製品(建設機械、鉱山機械、林業機械など)の稼働時に排出する作業量当たりのCO<sub>2</sub>を2030年までに2010年比で50%削減することを目標としています。この進捗を評価するために、その年の製品性能と、基準年(2010年)当時の製品の性能を比較し、燃費や作業効率の改善によるCO<sub>2</sub>削減貢献効果を算出しています。その結果、2024年度の製品では、基準年比で23%のCO<sub>2</sub>削減を達成しました。

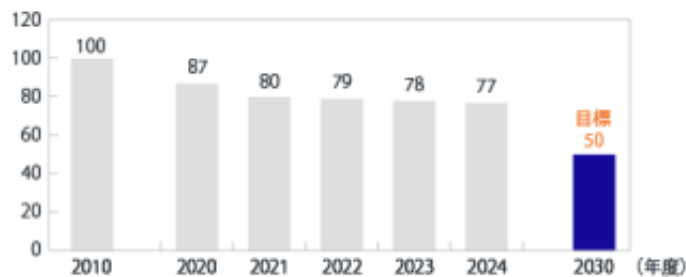
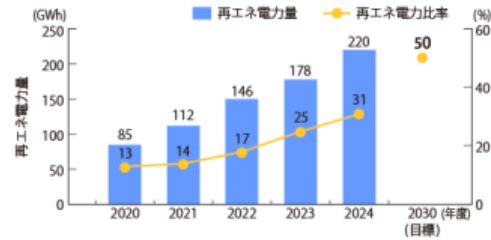
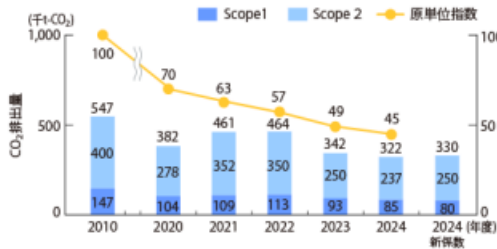


図-4 コマツの製品稼働時 CO<sub>2</sub> 排出指数

**生産におけるCO<sub>2</sub>削減**：コマツは気候変動問題に対応するため、グローバルの拠点で研究・開発や生産活動に使用する電力・燃料ガス・燃料油など全てのエネルギーを対象に、内製金額当たりのCO<sub>2</sub>排出量を指標として、CO<sub>2</sub>排出量原単位の低減活動を推進しています。

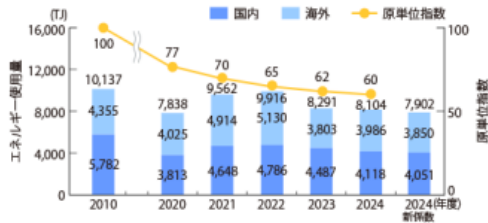
2024年度は、国内外の鋳造・鍛造・熱処理・機械加工等の負荷の高い工場を中心とした省エネ改善と、太陽光やバイオマス発電施設の増設、さらに海外ではグリーン電力の購入の拡大で、CO<sub>2</sub>排出量原単位を大きく低減し、電力の再生可能エネルギーの使用比率も31%まで向上しました。また、生産におけるCO<sub>2</sub>排出量については、2025年度から原単位目標から総量目標へ切り替えています。

なお、2021年度からインターナル・カーボンプライシング(ICP, 設定価格 CO<sub>2</sub>1 トンあたり 300 米ドル)を設定し、Scope1,2 の省エネや再生可能エネルギー設備投資判断に活用し、環境改善投資を促進しています。



(a) エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量

(b) 再生可能エネルギー電力量と比率



(c) エネルギー使用量

図-5 コマツの生産活動における(a) エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量、  
(b) 再生可能エネルギー電力量と比率、(c) エネルギー使用量

**物流における CO<sub>2</sub> 削減**：コマツは、国内の輸送では内航船や鉄道を活用するモーダルシフト化を推進するとともに、積載率の向上による輸送の効率化を進めています。また、輸出製品の港までの輸送距離を短縮するため、工場に近い金沢港や常陸那珂港を積極的に利用しています。

#### iv. 資金調達者の SDGs への取り組み

コマツでは、サステナビリティ基本方針に基づき、事業活動を通じた社会課題の解決を基本姿勢としています。コマツは、2025年4月の新中期経営計画の策定に伴い、コマツが取り組むべき重要課題(マテリアリティ)の見直しを行い、図-6 に示すとおり、6 分野 18 項目を特定しています。

マッピングによる重要度評価

マテリアリティマップ



具体的な課題

● 社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>①労働安全衛生ウェルビーイング</li> <li>②人材獲得、能力開発と職場定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③公正な労働慣行</li> <li>④D&amp;I</li> </ul>
● 人権	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤人権の尊重</li> </ul>	
● 顧客	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥現場の最適化による顧客価値創造</li> <li>⑦製品の安全・品質</li> <li>⑧バリューチェーンの継続性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨AI活用とDX推進</li> <li>⑩競争力の源泉・収益力確保のための事業戦略</li> </ul>
● 倫理・統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑪プライバシーとデータ保護、サイバーセキュリティ</li> <li>⑫事業の変化に合わせたガバナンス</li> <li>⑬コンプライアンス</li> </ul>	
● 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑭地域社会への貢献</li> </ul>	
● 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑮気候変動対策</li> <li>⑯資源循環</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑰ネイチャーポジティブ</li> <li>⑱事業を通じた森林保全への貢献</li> </ul>

図-6 コマツにおけるマテリアリティ

また、コマツが特定した6分野18項目の重要課題(マテリアリティ)のSDGsとの関係は、表-3に示す通りです。なお、今回のフレームワークでのSDGsへの貢献は、スケジュール-1に示す通りです。

表-3 コマツの重要課題(マテリアリティ)とSDGs

	SDGsとの関係	マテリアリティ (重要課題)	活動テーマ
人と共に		[社員] [人権]	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 安全で安心な職場環境の構築と社員の健康維持・増進</li> <li>▶ 多様な個性が地域のみならずグローバルに輝ける環境の実現</li> <li>▶ イノベーション創出のための環境づくりならびに人材育成</li> <li>▶ すべての事業活動に関連する人権の尊重</li> </ul>
社会と共に		[顧客] [倫理・統治] [地域社会]	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 製品安全性の向上</li> <li>▶ 産機 Komtrax*のコンテンツ拡充</li> <li>▶ スマートコンストラクション®による建設現場の生産性向上</li> <li>▶ 持続可能な資源開発を実現するソリューションの提供(マイニング)</li> <li>▶ 安全性・生産性向上を実現するソリューションの提供(自動化・自律化・遠隔操作化開発)</li> <li>▶ 環境・需要変動に対応力のあるバリューチェーンの構築</li> <li>▶ ガバナンスの充実、コンプライアンスの徹底</li> <li>▶ 社会貢献活動の継続</li> </ul>
地球と共に		[環境]	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ カーボンニュートラルへの取り組み</li> <li>▶ 事業活動による環境負荷低減(産機事業)</li> <li>▶ 循環型ビジネスの促進</li> <li>▶ 持続可能な循環型林業を支援するソリューション提供</li> <li>▶ ネイチャーポジティブに向けた活動</li> <li>▶ 世界の食料課題への貢献</li> </ul>

※ SDGsとの関連性は、グリーンファイナンス実行に際して補完的なものであり、直接的に資金調達目的として関連付けるものではありません。

## v. 外部イニシアティブ

コマツでは、ESG への取り組みを強化するために表-4 のような外部イニシアティブに参加しています。

表-4 コマツ 外部イニシアティブへの参加と取り組み

外部イニシアティブ		コマツの取り組み
国連グローバル・コンパクト		1999 年に世界経済フォーラムで提唱されたイニシアティブ。企業に対し、人権、労働、環境、腐敗防止に関する 10 原則の順守・実践を要請するもの。コマツは 2008 年 11 月に賛同を表明。
持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD)		世界 200 社超の企業が参加し、持続可能な開発を目指して経済・環境・社会に関する調査・提言を行う機関であり、SDGs(持続可能な開発目標)の実践にも積極的に取り組んでいる。コマツは、2010 年度に WBCSD に賛同し、活動に協力している。
気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)		金融安定理事会(FSB)により 2017 年 6 月に設置されたイニシアティブ。企業に対して、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標・目標の 4 つの観点から、財務に影響する気候関連情報を開示することを求めるもの。コマツは、2019 年 4 月に TCFD への賛同を表明し、要請に適合する情報開示を実施している。

## vi. グリーンファイナンス・フレームワークについて

コマツは、資金調達段階から技術・サービスの供給に至るまで一貫した、コマツの環境方針に合致する事業の達成と、グループ・ビジョンの実現に向けて、環境負荷低減に寄与する技術・サービスを提供するサプライヤーとしての役割を果たすべく、投資家及び幅広い市場関係者との対話を行い、そして国際的に定められた枠組みに適合した形で必要資金をグリーンファイナンスとして調達するため、コマツ グリーンファイナンス・フレームワーク(以下、フレームワーク)を策定しています。

このフレームワークが具体的に適用又は参照した枠組みについては後述の II 項(3)に記載されています。

**発行体名称** : 株式会社小松製作所  
**フレームワーク名** : コマツ グリーンファイナンス・フレームワーク  
**外部レビュー機関名** : DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社  
**報告書作成日** : 2026 年 6 月 10 日

## II. スコープと目的

コマツは DNV にフレームワークの適格性評価を委託しています。DNV におけるフレームワーク適格性評価の目的は、フレームワークが、後述する基準である GBP・GBGL 及び GLP・GLGL に合致していることを確認するための評価を実施し、このフレームワークの適格性についてセカンド・パーティ・オピニオンを提供することです。

DNV は、独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンの提供に際し、コマツとは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、この報告書では、今後このフレームワークに基づき実行される債券やローンの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

### (1) レビューのスコープ\*

レビューは以下の項目について評価し、GBP/GLP の主要な 4 要素の主旨との整合性について確認されました

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング           |

### (2) レビュー提供者の役割

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンド・パーティ・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証  |
| <input type="checkbox"/> 検証                         | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input type="checkbox"/> その他:                       |                              |

### (3) 適用される基準

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル <sup>*1*2</sup>
1.	グリーンボンド原則 (GBP) <sup>*3</sup>	国際資本市場協会 (ICMA)、2025	適用
2.	グリーンボンドガイドライン (GBGL) <sup>*3</sup>	環境省、2024	適用
3.	グリーンローン原則 (GLP) <sup>*3</sup>	ローン・マーケット・アソシエーション (LMA) 他、2025	適用
4.	グリーンローンガイドライン (GLGL) <sup>*3</sup>	環境省、2024	適用
5.	気候ボンド基準 4.2 版 (セクター技術基準)	気候ボンドイニシアチブ	参照 (適用可能な技術基準)

\*1 適用：各原則やガイドライン共通の 4 つの核となる要素全てに対する適格性を評価した

\*2 参照：今回のグリーンプロジェクトや実行計画に基づき、関連する内容を部分的に考慮した

\*3 グリーンプロジェクトは、気候ボンドイニシアチブの気候ボンド基準のうち参照可能な技術基準を用いて適格性評価を実施した。



### Ⅲ. コマツ及び DNV の責任

コマツは、DNV がレビューを実施するために必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンド・パーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについてコマツ及びコマツグリーンファイナンスの利害関係者に情報提供することを意図しています。

我々の業務は、コマツから提供された情報及び事実に依拠しています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された活動のいかなる側面に対して責任がなく、コマツから提供された情報及び事実に基づく試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、コマツの関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

## IV. DNV 意見の基礎

DNV は、資金調達者であるコマツにとってより柔軟なグリーンファイナンス適格性評価手順(以下、「手順」)を適用するために、GBP・GBGL 及び GLP・GLGL の要求事項を考慮した手順を作成しました。スケジュール-2 を参照してください。この手順は GBP・GBGL 及び GLP・GLGL に基づくコマツグリーンファイナンスに適用可能です。

DNV は、この手順に基づく評価により、独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンを提供いたします。

DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。意見表明の基準となる資金用途を特定した債券及びローンのグリーンファイナンスの背景にある包括的な原則は、以下の通りです。

「環境への利益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのコマツグリーンファイナンスに対する基準は、GBP・GBGL 及び GLP・GLGL で示される、それぞれ下記の要素にグループ分けされます。

### (1) GBP・GBGL 及び GLP・GLGL の 4 つの共通要素

#### 要素1. 調達資金の用途

調達資金の用途の基準は、資金用途を特定したグリーンファイナンスの資金調達者がグリーンファイナンスにより調達した資金を適格事業に使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格事業は、明確な環境改善効果を提供するものです。

#### 要素2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

プロジェクトの評価及び選定の基準は、グリーンファイナンスの資金調達者が、グリーンファイナンス調達資金を用途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。

#### 要素3. 調達資金の管理

調達資金の管理の基準は、グリーンファイナンスが資金調達者によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。

#### 要素4. レポーティング

レポーティングの基準は、債券及びローンへの投資家及び貸し手に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

\* GLGL ではローン固有の要素に対する要求事項(内部レビュー)が定められています。これはグリーンローンの要求事項のチェックの中で確認されます。

## V. 評価作業

DNV の評価作業は、資金調達者によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、資金調達前の評価では、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。

DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

### i. 資金調達前アセスメント(グリーンファイナンス・フレームワーク)

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、コマツグリーンファイナンスへの適用を目的とした資金調達者特有の評価手順の作成。
- このコマツグリーンファイナンスに関して資金調達者より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照。
- 資金調達者との協議及び、関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

### ii. 資金調達後アセスメント(\*この報告書には含まれません)

- 資金調達者の管理者へのインタビュー及び関連する文書管理の検証。
- 現地調査及び検査(必要な場合)。
- 資金調達後アセスメント結果の文書作成。

## VI. 観察結果と DNV の意見

DNV の観察結果と意見の概要は、以下に記載の通りです。

(1)は GBP/GLP-1~4 として、GBP・GBGL 及び GLP・GLGL の共通する 4 つの要素に対する観察結果と DNV の意見を示します。

詳細は、スケジュール-2 を参照してください。

### (1) GBP・GBGL 及び GLP・GLGL の共通する 4 つの要素に対する観察結果と DNV の意見

#### GBP/GLP-1. 調達資金の用途

DNV は、コマツがグリーンファイナンスで調達した資金全額のうち、経費を除く手取り金の全てが GBP・GBGL 及び GLP・GLGL で示される以下の代表的な適格事業区分とカテゴリーに合致したグリーンファイナンス候補プロジェクトのうち、何れか又は複数のグリーンプロジェクトへ、新規投資又はリファイナンスとして充当する計画であることを確認しました。

グリーンファイナンス候補プロジェクトの概要は、表-3 及びスケジュール-1 を参照してください。

具体的には以下の 3 つのグリーン候補プロジェクトに分類される 6 つの活動です。

#### プロジェクト A : 「製品使用による環境課題への対応」

- ① 商品：ハイブリッド油圧ショベル(国交省による低炭素型建機認定対象)及び電動化建機、水素エンジン車、燃料電池車など
- ② サービス：IoT 技術活用による低燃費運転(CO<sub>2</sub> 削減)支援
- ③ ソリューション：ICT 建機の普及と施工全体の最適化を支援するアプリケーションの提供による CO<sub>2</sub> 削減


#### プロジェクト B : 「生産による環境課題への対応」



- ① 工場内建屋及び設備の省エネ化(30%以上の CO<sub>2</sub> 排出削減効果があること)
- ② ソーラーパネル設置等による太陽光発電やバイオマス発電導入、再生可能エネルギーの購入

#### プロジェクト C : 「経営活動による環境課題への対応」

グリーンビル認証を債券またはローンによる調達から遡って過去 36 ヶ月以内に取得または、更新した建物。または、将来取得または更新予定の建物(付随する土地・設備・改修費用を含む)

表-1(再掲) コマツグリーンファイナンス候補プロジェクト

適格事業	GBP カテゴリー	適格事業概要	SDGs
プロジェクト A : 製品使用による 環境課題への対応に関する支出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省エネルギー</li> <li>・ クリーン輸送</li> <li>・ 循環経済に対応した製品/製造技術・プロセス/ 環境配慮製品</li> </ul>	<p>2030 年までに製品稼働中の CO<sub>2</sub> 排出の 50%削減(2010 年比)に貢献する取り組み(以下の商品・サービス・ソリューションの研究開発およびそれらの提供・普及等)</p> <p>① 商品：ハイブリッド油圧ショベル(国交省による低炭素型建機認定対象)及び電動化建機、水素エンジン車、燃料電池車など</p>	

適格事業	GBP カテゴリー	適格事業概要	SDGs
		② サービス：IoT 技術活用による低燃費運転 (CO <sub>2</sub> 削減) 支援 ③ ソリューション：ICT 建機の普及と施工全体の最適化を支援するアプリケーションの提供による CO <sub>2</sub> 削減	
<b>プロジェクト B:</b>  <b>生産による環境課題への対応に関する支出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー</li> <li>省エネルギー</li> </ul>	2030 年までに生産による CO <sub>2</sub> 排出の 50%削減 (2010 年比)および再生可能エネルギーの使用比率 50%に貢献する以下の取り組み(設備投資等)  ① 工場内建屋及び設備の省エネ化(30%以上の CO <sub>2</sub> 排出削減効果があること) ② ソーラーパネル設置等による太陽光発電やバイオマス発電導入、再生可能エネルギーの購入	   
<b>プロジェクト C:</b>  <b>経営活動による環境課題への対応に関する支出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンビルディング</li> </ul>	以下の(いずれかの)建物認証を債券又はローンによる調達から遡って過去 36 ヶ月以内に取得または、更新した建物。または将来取得または更新予定の建物 (付随する土地・設備・改修費用含む)。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ZEB 認証：ZEB、Nearly ZEB、ZEB Ready</li> <li>➤ CASBEE 建築（新築）：S ランク、A ランク</li> <li>➤ LEED-BD+C (Building Design and Construction) または LEED-O+M (Building Operations and Maintenance) 認証（ともに v4 以降）：Platinum、Gold</li> <li>➤ BELS（建築物省エネルギー性能制度）：               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 平成 28 年度基準：5 つ星、4 つ星</li> <li>✓ 令和 6 年度基準：レベル 6、5</li> </ul> </li> <li>➤ DBJ Green Building 認証：5 つ星、4 つ星または 3 つ星</li> </ul>	

なお、本グリーンファイナンスでは、化石燃料の採掘での利用のみを目的とした製品、サービスは除外しています。

### プロジェクト A：「製品使用による環境課題への対応」

建設機械のライフサイクルで排出される CO<sub>2</sub> のうち、およそ 80～90%が稼働中に発生しています。そのためコマツでは、高効率エンジンやハイブリッドシステム、建設機械の電動化などによる製品そのものの低燃費化はもちろん、稼働現場での自動あるいは自律運転による施工の効率化によって現場全体の CO<sub>2</sub> 排出を減らす取り組みなど、ハード面だけでなく、モノとコト、両方のイノベーションにより建設機械が稼働中に排出する CO<sub>2</sub> 削減を進めています。

プロジェクト A では、2030 年までに製品稼働中の CO<sub>2</sub> 排出の 50%削減(2010 年比)に貢献する取り組みに関連する支出(以下の商品・サービス・ソリューションの研究開発およびそれらの提供・普及等)を対象とする予定です。候補プロジェクトは以下の通りです。

#### ① 商品：ハイブリッド油圧ショベル、電動化建機、水素エンジン車、燃料電池車など

コマツは、2008 年に建設機械(建機)において世界で初めてハイブリッドシステムを搭載したハイブリッド油圧ショベル「PC200-8 ハイブリッド」を市場導入し、建機の省エネルギー化に貢献しています。2025 年 4 月現在、燃費性能の優れた建設機械として、国交省の「燃費基準達成建設機械」<sup>\*1</sup>に、ブルドーザー「D71PX-24」、油圧ショベル「PC200i-12」、ホイールローダー「WA150-8」など、25 型式が認定されています。また、国交省の建設施工現場における電動建機の普及による脱炭素化を図るための「GX 建設機

## DNV

「認定制度」\*2では、バッテリー式電動油圧ショベルや有線式電動油圧ショベルで、電動油圧ショベル「PC200LCE-11」、電動マイクロショベル「PC01E-2」など、計 8 型式が認定されています。さらに、コマツでは、水素エンジン搭載大型ダンプトラックや水素燃料電池搭載ショベルの実証実験など、カーボンニュートラル実現に向けあらゆる方面から環境対応の技術開発に取り組んでいます。

コマツのハイブリッド油圧ショベルは、現在日本において、電動化が困難な大型(機械重量 30t 以上、標準山積み容量 1.4m<sup>3</sup> 以上)のものが対象であり、ハイブリッド技術が BAT(Best Available Technology; 利用可能な最先端の技術)であることを DNV は確認しています。

グリーンファイナンスでは、ハイブリッド油圧ショベル(写真-1)、駆動力の全てをバッテリーや有線を使用した電動化建機(写真-2,3)、水素エンジン搭載建機(写真-4)、水素燃料電池搭載建機(写真-5)の研究開発及びそれらの提供・普及に関連する支出に充当します。

\*1 国交省が地球温暖化対策として取り組んでいるもので先進技術を搭載した省エネ建機。燃費基準値(トップランナー値)を定めたもので、燃費基準値を達成する建機の認定制度(H25 年度より実施)

\*2 国交省がカーボンニュートラルに資する GX 建設機械の普及の促進を目的として取り組んでいるものでバッテリー式及び有線式の電動建機のみを対象としている認定制度(R5 年度より実施)



写真-1 プロジェクト A-① ハイブリッド油圧ショベル HB335-3(一例)



写真-2 プロジェクト A-① バッテリー駆動式油圧ショベル PC200LCE-11(一例)



PC01E-2 正面



PC01E-2 後方

写真-3 プロジェクト A-① バッテリー駆動式電動マイクロショベル PC01E-2 (一例)



写真-4 プロジェクト A-① 水素エンジン搭載大型ダンプトラックのコンセプトマシン(一例)

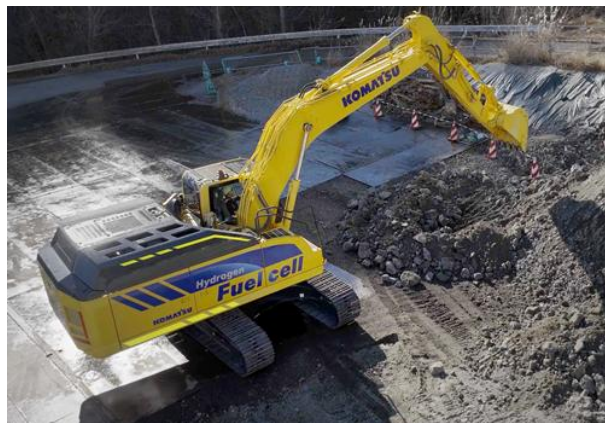


写真-5 プロジェクト A-① 水素燃料電池搭載油圧ショベル FC ショベル実証機(一例)

② サービス :

**IoT 技術活用により建設機械の稼働に起因する燃料消費の状況を把握し、お客さまへの低燃費運転の改善提案等を通じて CO<sub>2</sub> 削減に貢献するシステム**

建設機械に取り付けた機器から、車両の位置や稼働時間、稼働状況などの情報を提供するシステム (KOMTRAX、図-8)を通じて、建設機械の稼働時間、仕事時間、さらには使われ方、燃費を「見える化」し、インターネットを通してお客様への提供や低燃費運転の改善提案などにより、お客様での燃料消費を抑え、CO<sub>2</sub> 削減支援を行います。

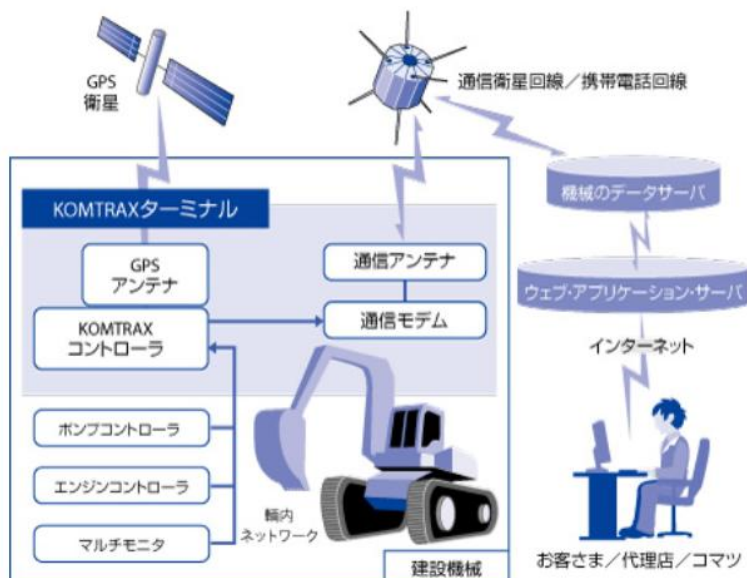


図-8 プロジェクト A-② KOMTRAX(Komatsu Machine Tracking System)の構成

## ③ ソリューション：

### お客さまの施工オペレーションの最適化を実現する ICT 建機<sup>\*3</sup>の提供・普及、およびアプリケーションの開発・活用

\*3 ICT 建機：国交省が推進する「i-Construction」の ICT 活用工事で ICT 建機として定義されており、3D マシンガイドンス(3D-MG)および、3D マシンコントロール(3D-MC)機能を搭載した建機

お客さまの現場の施工計画及び施工をデジタル化により短縮するアプリケーションと、アプリケーションの活用に必要な ICT 建機の提供・普及により、施工プロセス全体での CO<sub>2</sub> 削減に貢献します(図-9)。コマツでは、ICT 建設機械を使った社内テスト施工のデータを元に試算した結果、以下の燃料消費量削減効果が得られることを確認しています。

- ・ ICT 油圧ショベル「PC200i-10」での盛土法面整形作業では約 30%の燃料消費量の削減。
- ・ ICT ブルドーザー「D61PXi-23」での敷均し作業では約 25%の燃料消費量の削減

コマツでは、ICT 建設機械と、ドローンや 3D スキャナーを使った現況地形計測など、工事現場の作業効率化とプロセスの「見える化」を進める「スマートコンストラクション」を展開しています。

このプロジェクトでは、アプリケーションの研究開発と共に、ICT 建機の提供・普及に関連する支出を含みます。



図-9 プロジェクト A-③ デジタルトランスフォーメーション・スマートコンストラクション全体像

## プロジェクト B : 「生産による環境課題への対応」

2030 年までに生産による CO<sub>2</sub> 排出の 50%削減(2010 年比)および再生可能エネルギーの使用比率 50%に貢献する取り組み(設備投資等)に関連する支出を対象とする予定です。

プロジェクト B の候補プロジェクトは以下の通りです。

### ① 工場内建屋及び設備の省エネ化(30%以上の CO<sub>2</sub> 排出削減効果があること)

コマツの生産工場等において、省エネ型の設備(電気、空調、制御機器)、高断熱材、自然採光、低放射型ガラスの導入により既存工場の省エネ(電力削減を通じた CO<sub>2</sub> 排出削減)に貢献します。



写真-6 プロジェクト B-① 工場内建屋及び設備の省エネ化導入例  
(コマツ小山工場 スマートライン)

### ② ソーラーパネル設置等による太陽光発電やバイオマス発電導入、再生可能エネルギーの購入

#### (1) ソーラーパネル設置等による太陽光発電導入

ソーラーパネル設置等による太陽光発電の導入により、工場での電力利用に再生可能エネルギー由来の電力導入を拡大することで、CO<sub>2</sub> 排出削減に貢献します。



写真-7 プロジェクト B-② 太陽光発電導入例  
(粟津工場 ソーラーパネル)

## (2) バイオマス発電導入

バイオマス発電の導入により、工場での電力利用に再生可能エネルギー由来の電力導入を拡大することで、CO<sub>2</sub> 排出削減に貢献します。



写真-8 プロジェクト B-② バイオマス発電導入例  
(コマツ栗津工場 バイオマス蒸気ボイラシステム(2015年導入))

## (3) 再生可能エネルギーの購入

工場等への直接的及び積極的な再生可能エネルギーの導入を前提に、目標達成に必要な差分(不足分)を対象として、グリーン電力証書付き等の再生可能エネルギーの購入により、CO<sub>2</sub> 排出削減に貢献します。

### プロジェクト C : 「経営活動による環境課題への対応に関する支出」

コマツは経営活動においても環境に配慮した取り組みを進めています。現在建て替えを行っているコマツ本社ビルについても、環境負荷を抑える設計を採用しており、グリーンビルディング認証を取得する予定です。

#### コマツ新本社

コマツは、中期経営計画の成長戦略で掲げる「経営基盤の革新」を目指しており、その一環として、現在、コマツ本社ビル(東京都港区赤坂)の建て替えを行っています。2024年1月より一時移転を開始するとともに当該ビル建て替え工事に着手し、2026年11月に竣工を予定しています。当該ビルはCO<sub>2</sub>排出量削減にも配慮した設計を採用し、建屋環境性能の向上や木材の積極活用を図り、「ZEB Ready」を達成する予定です。

新社屋では、多様な働き方に合わせた執務エリアの実現、産学・産産連携やオープンイノベーションの拡大など、イノベーションセンターとしての機能強化を図ります。加えて、1966年の旧本社の竣工以来、日本における屋上庭園の先駆けとして社員や地域の皆さまに親しまれてきた屋上庭園は新社屋にも設置されます。屋上庭園は、社員のウェルビーイング向上に寄与するだけでなく、緑豊かな空間を一般に開放することで、地域コミュニティとのつながりを深める役割も果たします。さらに、多様な植物を植栽することで生物多様性の保全に貢献し、ヒートアイランド現象の緩和にも寄与します。

なお、コマツ新本社建て替えによる、環境改善効果(年間エネルギー使用削減量及び年間CO<sub>2</sub> 排出削減量)は以下に基づき算出される予定です。

$$\text{年間エネルギー使用削減量} = \alpha \cdot (E_{\text{old}}/A_{\text{old}}) \cdot A_{\text{new}} - E_{\text{new}}$$

$$\text{年間CO}_2\text{ 排出削減量} = k \cdot [\alpha \cdot (E_{\text{old}}/A_{\text{old}}) \cdot A_{\text{new}} - E_{\text{new}}]$$

# DNV

- $A_{old}$  : 旧本社の延床面積 [m<sup>2</sup>]
- $A_{new}$  : 新本社の延床面積 [m<sup>2</sup>]
- $E_{old}$  : 旧本社の年間エネルギー使用量 [kWh/年(または GJ/年)]
- $E_{new}$  : 新本社の年間エネルギー使用量 [kWh/年(または GJ/年)]
- $\alpha$  : 稼働条件補正係数(面積比以外の条件差(運用時間等))
- $k$  : CO<sub>2</sub> 排出係数 [t-CO<sub>2</sub>/kWh(または t-CO<sub>2</sub>/GJ)]



図-10 コマツ新本社イメージ図

項目	内容
所在	東京都港区赤坂二丁目 3-6
延床面積	約 20,000 m <sup>2</sup>
構造	鉄骨造、地上 12 階地下 2 階建
着工	2024 年 1 月
竣工	2026 年 11 月予定
グリーンビル認証	ZEB Ready ZEB は、Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略称。ZEB Ready は、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支ゼロを目指した建物「ZEB」を見据え、外皮の高断熱化および高効率な省エネルギー設備を備え、再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から 50%以上の削減に適合した建築物。

## GBP/GLP で分類される調達資金の使途

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー効率 (省エネルギー) |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び抑制             | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理      |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全      | <input checked="" type="checkbox"/> クリーン輸送           |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源及び廃水管理       | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応                    |

- 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス
- グリーンビルディング(地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたもの)
- その他(具体的に記載)
- 債券発行時には未定であるが、現時点で GBP 分類または、GBP には記載されていない他の適格分野に適合することが予想される

## GBP/GLP-2. プロジェクトの評価と選定プロセス

DNV はレビューを通じて、スケジュール-1 に記載される対象グリーンファイナンス候補プロジェクト(適格事業)が、各適格事業を実施しているコマツの各責任部門により適格性の観点で特定し、対象事業候補とした事業については、コマツの環境管理部および財務部が、コマツのグループ理念およびグループ・ビジョンとの適合性を踏まえ、対象事業の適格性を評価・選定し、取締役会にて最終決定されることを確認しました。

なお、事業の適格性の判断の際は、対象とする事業が環境・社会的リスク低減のために以下について対応していることを確認します。

- 事業の所在地の国・自治体にて求められる環境関連法令等を遵守し、必要に応じて環境への影響調査を実施していること。

### 【確認項目】

- 土壌・地下水汚染
- PCB 廃棄物の管理
- 化学物質の管理・汚染防止
- 環境負荷物質削減
- 水リスク対応

- サプライチェーンの観点で環境活動を実施していること。

### 【確認項目】

- コマツグリーン調達方針への適合
- サプライヤーの ISO14001 の取得支援と維持の支援

## 評価及び選定

- 発行体の環境貢献目標の達成に合致していること
- プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること
- グリーンファイナンスの調達資金の用途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること
- プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること
- 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること
- (具体的に記載) :



## 責任に関する情報及び説明責任

- 外部機関による助言若しくは検証による評価 /選定基準
- 組織内部での評価
- その他(具体的に記載) :

## GBP/GLP-3. 調達資金の管理

グリーンボンドもしくはグリーンローンによって調達した資金と同額をコマツ財務部が管理フローに従い、適格事業に充当します。調達された資金については、コマツ財務部が実際に適格事業にて使われた額を内部管理システムにて4半期毎に追跡管理します。調達資金は、充当が完了されるまでの間、資金と等しい額を現金又は現金同等物にて管理し、発行から原則3年以内に充当を完了する予定です。

### 調達資金の追跡管理:

- グリーンファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、資金調達者により体系的に区別若しくは追跡管理される
- 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- その他 (具体的に記載) :未充当資金は現金又は現金同等物にて管理される

### 追加的な開示情報:

- 新規投資のみに充当
- 既存及び新規投資の両方に充当
- 個別(プロジェクト)の支出に充当
- ポートフォリオの支出に充当
- 未充当資金のポートフォリオを開示
- その他(具体的に記載) : グリーンファイナンス充当対象となった候補プロジェクトの既存及び新規投資の割合及び額は定期レポート開示時に開示予定

## GBP/GLP-4. レポーティング

DNV は、コマツが適格事業への資金充当状況及び環境改善効果に関して、年次でコマツのウェブサイト、コマツレポート(統合報告書)、または ESG データブックのいずれかで報告する予定であることを確認しました。具体的には下記の通りです。

### <資金充当レポーティング>

コマツは、適格事業に調達資金の全額が充当されるまでの間、資金充当状況のレポートに関して実務上可能な範囲において、以下の情報を年次で公表します。なお、ローンの場合は貸し手に対してのみ直接報告することも選択できるものとします。

- 各適格事業へのカテゴリ別での充当状況(充当額/割合)
- 充当された適格事業の概要
- 新規資金充当とリファイナンスへの充当割合
- 未充当資金の額

なお、調達資金の充当状況に大きな変化が生じた場合は、適時に開示します。

### <環境改善効果>

表-2 にインパクト・レポーティングにおける指標(例)を示します。コマツは、グリーンボンドもしくはグリーンローンが少なくとも充当されるまでの間、インパクト・レポーティングに関して適格事業に関連する以下の指標を実務上可能な範囲において年次で公表します。なお、以下の適格事業 A・B の指標は、グリーンボンドもしくはグリーンローンの資金用途を含むグローバルでの事業全体の取り組みを評価・開示するものです。また、ローンの場合は貸し手に対してのみ直接報告することも選択できるものとします。

表-2(再掲) インパクト・レポーティングにおける指標(例)

適格事業		GBP カテゴリ	環境改善効果指標(例)
A	製品使用による環境課題への対応に関する支出	省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 製品使用による CO<sub>2</sub> 排出削減量または割合</li> <li>➢ 生産による CO<sub>2</sub> 排出削減量または割合</li> <li>➢ 再生可能エネルギー使用率(%)および年間使用量 (MWh/GWh または GJ/TJ/PJ)</li> </ul>
		クリーン輸送	
	循環経済に対応した製品/製造技術・プロセス/環境配慮製品		
B	生産による環境課題への対応に関する支出	再生可能エネルギー	
		省エネルギー	
C	経営活動による環境課題への対応に関する支出	グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ グリーン適格要件を満たす物件概要</li> <li>➢ 有効な環境認証およびランク</li> <li>➢ 年間 CO<sub>2</sub> 排出削減量</li> <li>➢ 年間エネルギー使用削減量</li> </ul>

### 資金充当状況に関する報告事項:



# DNV

- |                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> プロジェクト単位    | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 関連する個々の債券単位 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) :              |

### 報告される情報:

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金充当額 | <input checked="" type="checkbox"/> 投資総額のうちグリーンファイナンスにより充当された額割合 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) :    |  |

### 頻度:

- |  |                               |
|--|-------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年   | <input type="checkbox"/> 半年ごと |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載) : 調達資金が充当された後に大きな資金状況の変化が生じた場合 |                               |

### インパクトレポート(環境改善効果) :

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> プロジェクト単位        | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 関連する個々のファイナンス単位 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) :              |

### 頻度:

- |  |                               |
|--|-------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年 | <input type="checkbox"/> 半年ごと |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) : |                               |

### 報告される情報(予測される効果、若しくは発行後) :

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> GHG 排出量/削減量             | <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー削減量                    |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他の ESG 評価項目(具体的に記載) : | - 再生可能エネルギー使用率および年間使用量<br>- グリーン適格要件を満たす物件概要<br>- 有効な環境認証およびランク |

### 開示方法

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 財務報告書に記載(統合報告書)                    | <input checked="" type="checkbox"/> サステナビリティレポート(ESG データブック)に記載 |
| <input type="checkbox"/> 臨時報告書に記載                                      | <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載) : ウェブサイトで開示     |
| <input type="checkbox"/> レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載) : |   |



## Ⅶ. 評価結果

DNV は、コマツから提供された情報と実施された業務に基づき、コマツ グリーンファイナンス・フレームワークが、適格性評価手順の要求事項を満たしており、GBP・GBGL、GLP・GLGL を意見表明の基準となる以下の定義・目的と一致していることを意見表明します。

「環境への利益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2026 年 6 月 10 日

**金留 正人**

テクニカルレビューアー

DNVビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

**前田 直樹**

代表取締役/シニアヴァイスプレジデント

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

**塚崎 旭**

プロジェクトリーダー/アセッサー

DNVビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

### About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.









With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

### Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion Providers, DNV : The management of Issuer has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete

## スケジュール-1 コマツグリーンファイナンス候補プロジェクト

表中に記載されているプロジェクトはファイナンス実行前評価時点(2026年3月現在)で適格性を評価済みの適格事業候補です。今後、コマツグリーンファイナンス・フレームワークに基づき実行される債券又はローンにおいては適格事業候補から何れか又は複数が選定され、ファイナンス実行前又はファイナンス実行後のレポートで報告されます。

適格事業	GBP カテゴリー	適格事業概要	SDGs
<b>プロジェクト A:</b>  <b>製品使用による環境課題への対応に関する支出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー</li> <li>クリーン輸送</li> <li>循環経済に対応した製品/製造技術・プロセス/環境配慮製品</li> </ul>	2030年までに製品稼働中のCO <sub>2</sub> 排出の50%削減(2010年比)に貢献する取り組み(以下の商品・サービス・ソリューションの研究開発およびそれらの提供・普及等)  ① 商品：ハイブリッド油圧ショベル(国交省による低炭素型建機認定対象)及び電動化建機、水素エンジン車、燃料電池車など ② サービス：IoT技術活用による低燃費運転(CO <sub>2</sub> 削減)支援 ③ ソリューション：ICT建機の普及と施工全体の最適化を支援するアプリケーションの提供によるCO <sub>2</sub> 削減	   
<b>プロジェクト B:</b>  <b>生産による環境課題への対応に関する支出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー</li> <li>省エネルギー</li> </ul>	2030年までに生産によるCO <sub>2</sub> 排出の50%削減(2010年比)および再生可能エネルギーの使用比率50%に貢献する以下の取り組み(設備投資等)  ① 工場内建屋及び設備の省エネ化(30%以上のCO <sub>2</sub> 排出削減効果があること) ② ソーラーパネル設置等による太陽光発電やバイオマス発電導入、再生可能エネルギーの購入	   
<b>プロジェクト C:</b>  <b>経営活動による環境課題への対応に関する支出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンビルディング</li> </ul>	以下の(いずれかの)建物認証を債券又はローンによる調達から遡って過去36ヶ月以内に取得または、更新した建物。または将来取得または更新予定の建物(付随する土地・設備・改修費用含む)  > ZEB 認証：ZEB、Nearly ZEB、ZEB Ready > CASBEE 建築（新築）：Sランク、Aランク > LEED-BD+C (Building Design and Construction) または LEED-O+M (Building Operations and Maintenance) 認証（ともに v4 以降）：Platinum、Gold > BELS（建築物省エネルギー性能制度）： ✓ 平成28年度基準：5つ星、4つ星 ✓ 令和6年度基準：レベル6、5 > DBJ Green Building 認証：5つ星、4つ星または3つ星	



## スケジュール-2 グリーンファイナンス適格性評価手順

下記のチェックリスト(GBP/GLP-1~GBP/GLP-4) は、GBP・GBGL 及び GLP・GLGL の要求事項を基に、コマツグリーンファイナンス(ボンド及びローン)適格性評価用に作成された DNV 評価手順です。評価作業における「関連文書確認」は発行体内部文書等が含まれ、コマツから DNV に対して適格性判断の証拠として提供されています。

### GBP/GLP-1 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	グリーンファイナンスの種類は GBP で定義される以下の種類の何れかに分類される。 ・(標準的) グリーンボンド/ローン ・グリーンレバニューボンド/ローン ・グリーンプロジェクトボンド/ローン ・その他	確認した文書類 - フレームワーク  関係者へのインタビュー	DNVは、評価作業を通じグリーンファイナンス(ボンド/ローン)が以下のカテゴリに分類されることを確認した。  ・(標準的) グリーンボンド/ローン
1b	グリーンプロジェクト分類	グリーンファイナンスにおいて肝要なのは、その調達資金がグリーンプロジェクトのために使われることであり、そのことは、証券に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類 - フレームワーク - コマツレポート2025 - ESGデータブック2025  関係者へのインタビュー	DNVは、コマツがグリーンファイナンスにより調達した資金全額のうち、経費を除く手取り金の全てがGBP/GBGL及びGLP/GLGLで示される以下の適格事業カテゴリに合致した3つのグリーンファイナンス候補プロジェクトに新規投資及びリファイナンスとして充当される計画であることを確認した。  「再生可能エネルギー」 「省エネルギー」 「クリーン輸送」 「循環経済に対応した製品/製造技術・プロセス/ 環境配慮製品」 「グリーンビルディング」  具体的には、以下の3つのグリーンプロジェクトに分類される6つの活動である。  <b>プロジェクトA：「製品使用による環境課題への対応」</b> ① 商品：ハイブリッド油圧ショベル(国交省による低炭素型建機認定対象)、電動化建機、水素エンジン車、燃料電池車など ② サービス：IoT技術活用による低燃費運転(CO <sub>2</sub> 削減)支援 ③ ソリューション：ICT建機の普及と施工全体の最適化を支援するアプリケーションの提供によるCO <sub>2</sub> 削減  <b>プロジェクトB：「生産による環境課題への対応」</b>

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
				① 工場内建屋及び設備の省エネ化(30%以上のCO <sub>2</sub> 排出削減効果があること) ② ソーラーパネル設置等による太陽光発電やバイオマス発電導入、再生可能エネルギーの購入  <b>プロジェクトC : 「経営活動による環境課題への対応」</b> グリーンビル認証を債券またはローンによる調達から遡って過去36ヶ月以内に取得または、更新した建物。または、将来取得または更新予定の建物(付随する土地・設備・改修費用を含む)  DNVはアセスメントを通じ、グリーンプロジェクト候補が具体的かつ真に環境上の利益をもたらすと結論付ける。
1c	環境面での便益	調達資金使途先となる全てのグリーンプロジェクトは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	確認した文書類 - フレームワーク - コマツレポート2025 - ESGデータブック2025  関係者へのインタビュー	グリーンプロジェクトは、コマツの地球環境方針及び中長期ビジョンに基づく目標に貢献する1bで示す適格事業区分およびカテゴリーのプロジェクトにより低・脱炭素化に資するプロジェクトである。環境面での便益としてCO <sub>2</sub> 排出量削減であり、コマツにより定量的に評価されている。  DNVは、レビューを通じて、プロジェクト実行に付随するリスクについて、太陽光発電、バイオマス発電に関連するGHG排出リスクが挙げられるが、以下の観点から相対的に少なく、GBP/GBGL及びGLP/GLGLの適格性評価に影響は無いと判断した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電：屋根置き型であり、新たな土地開発は含まれない</li> <li>バイオマス発電機：近隣からの未利用間伐材をバイオマス燃料としており、付随的なGHG排出のリスクは無視できる(燃料輸送等に関連するGHG排出は無視できる)</li> </ul>
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	確認した文書類 - フレームワーク  関係者へのインタビュー	DNVはレビューを通じて、コマツが調達資金を全てスケジュール-1に含まれる適格事業候補の何れか又は複数に対し新規投資、リファイナンスの何れか又は両方に使用する計画である。ファイナンス実行前に、予め新規投資、リファイナンスの別が明らかかな場合は、法的書類等で開示予定である。また、未定の場合は、レポーティング(年次報告)を通じて、調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額(又は割合)を明らかにする予定であることを確認した。



## GBP/GLP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>グリーンファイナンスの資金調達者はグリーンファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発行体が、対象となるプロジェクトが適格なグリーンプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス</li> <li>グリーンファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成</li> <li>環境面での持続可能性に係る目標</li> </ul>	<p>確認した文書類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フレームワーク</li> <li>コマツレポート2025</li> <li>ESGデータブック2025</li> </ul> <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>DNV はレビューを通じて、コマツはフレームワークに基づき、以下の基準に従いプロジェクトの選定を行う予定であることを確認した。</p> <p>適格候補プロジェクト：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュール-1 に記載される 3 つの適格グリーン候補プロジェクトが、コマツの中期経営計画「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」ならびにコマツ地球環境方針に基づく ESG の課題解決と SDGs への貢献を企図したプロジェクトであり、GBP カテゴリに分類される適格クライテリアを満たすことについて、発行体の関連部署(環境管理部及び財務部)で所定のプロセスを経て評価及び選定されることを確認した。</li> <li>プロジェクトの選定に当たっては「II 項 スコープと目的 (3) 適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアに合致すると共に、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響を考慮する必要があると判断された場合には、下記の環境・社会的リスクを低減する取り組みが実施されていることを確認する計画であることを確認した。</li> </ul> <p>①事業の所在地の国・自治体にて求められる環境関連法令等を遵守し、必要に応じて環境への影響調査を実施していること</p> <p>【確認項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土壌・地下水汚染</li> <li>PCB 廃棄物の管理</li> <li>化学物質の管理・汚染防止</li> <li>環境負荷物質削減</li> <li>水リスク対応</li> </ul> <p>②サプライチェーンの観点で環境活動を実施していること</p> <p>【確認項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コマツグリーン調達方針への適合</li> <li>サプライヤーの ISO14001 の取得支援と維持の支援</li> </ul>
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>グリーンファイナンスプロセスに関して資金調達者により公表される情報には、規準、認証に加え、投資家は資金調達者のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フレームワーク</li> <li>コマツレポート2025/コマツ ESGデータブック2025</li> <li>ウェブサイト</li> </ul> <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>DNVは、コマツがプロジェクトを運営・実施するにあたり、関係する各部において周辺環境の保全に取り組んでいるほか、PDCAサイクルにおいて定期的にモニタリングを実施している、または実施する計画であることを、フレームワーク等の文書の確認や関係者へのインタビューを通じて確認した。</p> <p>また、コマツがフレームワークに基づき実施するグリーンプロジェクトが持続可能な社会の実現に有効な事業であるということを確認した。</p>



## GBP/GLP-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	グリーンファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、グリーンプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	確認した文書類 <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> <li>- 資金管理表</li> </ul> 関係者へのインタビュー	調達資金はコマツが管理する口座に入金され、グリーンプロジェクトのための資金残高は電子ファイルで別途区分管理されることになっている。また、財務及び経理部門では追跡管理しうる資金管理事務規則、調達資金の管理フロー及びグリーンボンド調達資金管理表を整備しており、要求事項に適合している。DNVは、コマツが上記プロセスに基づき内部統制による追跡管理ができることを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	グリーンファイナンスの償還/弁済期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格事業への充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類 <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> <li>- 資金管理表</li> </ul> 関係者へのインタビュー	コマツは定期的(4半期毎)に充当額と未充当残高が調達資金と一致していることを定期的に確認するための管理表の備えができており、DNVは会社が調達資金を他の残高と区分して管理する体制があることを、確認した。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるグリーンプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類 <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> <li>- 資金管理表</li> </ul> 関係者へのインタビュー	DNVは、コマツの内部管理システム等を通じた確認プロセスが、未充当金の残高を逐次認識できる仕組みであることを確認した。  未充当資金の残高はグリーンファイナンス調達資金管理表により容易に把握できる。また、未充当資金は現金または現金同等物で管理される。DNVは、これらが資金充当状況のレポートングを通じて明らかにされる予定であることを確認した。



GBP/GLP-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はグリーンファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 守秘義務や競争上の配慮</li> <li>- 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果</li> </ul>	<p>確認した文書類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- フレームワーク</li> <li>- コマツレポート2025/コマツESGデータブック2025</li> <li>- ウェブサイト</li> </ul> <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>DNV は、調達資金が充当されるまでの間、コマツがグリーンファイナンスの年次報告をコマツのウェブサイト、コマツレポート(統合報告書)又は ESG データブックを通じて実施し、資金充当状況および環境改善効果に関する情報を開示することを確認した。資金充当状況及び環境改善効果は、実務上可能な範囲において、下表のいずれか又は複数を開示することを確認した。</p> <p>&lt;資金充当状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 各適格事業へのカテゴリー別での充当状況(充当額/割合)</li> <li>◆ 充当された適格事業の概要</li> <li>◆ 新規資金充当とリファイナンスへの充当割合</li> <li>◆ 未充当資金の額</li> </ul> <p>&lt;環境改善効果&gt;</p> <p><b>適格事業 A・B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 製品使用による CO<sub>2</sub> 排出削減量又は割合(2010 年比)</li> <li>◆ 生産による CO<sub>2</sub> 排出削減量又は割合(2010 年比)</li> <li>◆ 再生可能エネルギー使用率(%)および年間使用量(MWh/GWh または GJ/TJ/PJ)</li> </ul> <p><b>適格事業 C</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ グリーン適格要件を満たす物件の概要</li> <li>◆ 有効な環境認証及びランク</li> <li>◆ 年間 CO<sub>2</sub> 排出削減量</li> <li>◆ 年間エネルギー使用削減量</li> </ul>